

大人も子どもも共に楽しくまなび合えるまちになるために

第2回審議会 ワークショップまとめ

地域教育の普及

大人と子どもがともに楽しくまなび合う

- ・大人と一緒に失敗すること。
- ・遊びが楽しいにつながる(学び合い)。
- ・「すごいこと」ではなく「面白いこと」。
- ・共通体験が学びのきっかけに。
- ・運営する方も楽しく。
- ・教育者と学習者が入れ替わる。
- ・「やりたいこと」を実現できる。
- ・若いリーダーへの「あこがれ」。
- ・楽しそう⇄関わりたい
- ・同じ達成感を味わう。

子どもたちの居場所・活躍の機会

- ・放課後をもっと自由に。
- ・学校の中に地域の事務所を置く。
- ・学校を地域にひらく。
- ・企画を子どもと一緒に創る。
- ・先生と遊ぶ。
- ・学校図書館の充実。
- ・子どもの想いを大人が応援する。
- ・学校が多様な意見を持つ。

大人のまなび

- ・大人が楽しむ。
- ・好きなことを語れる大人がいる
- ・楽しみながらイベントする。
- ・誰でもセンセイになれる。
- ・世代間のギャップを楽しむ。

社会教育人材の育成

求められる能力

- ・多様な世代をつなぐ。
- ・つながりをつくりだす。
- ・まなびの場を仕掛ける。
- ・地域リソースを活用できる。
- ・楽しい場をつくる。
- ・活動の旗振りができる。

社会教育人材を増やすために

- ・活躍できる場を増やす
- ・人材の予算を確保する。
- ・社会教育人材を育成する場所が必要。
- ・若いリーダーの育成。
- ・社会教育関係の仲間がいること。
⇒社会教育人材が横でつながる。

○具体例
社会教育士

ネットワーク形成

多様な主体とのつながり

- ・学校、地域、家庭の連携。
- ・企業やNPOとつながる。
- ・市民活動をしているグループ同士のつながり。
- ・高齢者グループ同士のつながり。
- ・若手社会人が楽しむ機会づくり。
- ・障がいを持った方が集える場づくり。
- ・学校と自治協議会(振興会)の連携協働。

持続的な地域コミュニティ

- ・自治会の組(隣保)の活性化。
- ・地域の活動への参加者を増やす。
⇒参加したいと思う地域活動をつくる。
- ・移住者、他市町の方とのつながり。
- ・小学校の統合による地域の在り方を考える。
- ・自治協議会(振興会)のネットワークを生かす。

まなびの場に参加しやすい環境づくり

情報発信

- ・オンラインでの情報発信。
- ・誰でもまなびの場を見つけことができる仕組み。

まなびの機会提供

- ・まなびが余裕を生むための「あそび(余白)」。
- ・多様なジャンルのまなびの場があること。
- ・初めの一歩が出やすくする機会が身近にあること。
- ・チャレンジを応援する機会。

まなびの環境

- ・認めてくれる人がいること。
- ・喜びを分かち合う人がいること。
- ・一緒に活動する仲間がいること。
- ・自分たちでやっている感。
- ・失敗を許容する関係性。
- ・教える楽しさを味わう。
- ・主体性と強制(機会)のバランス。
- ・秘密基地的な居場所をつくる。
- ・図書館をハブにする。